XXXX年XX月XX日

1301234c 神戸 太郎

5月上旬の2014卒就活状況調査レポート

〜2014年卒『就職活動モニター調査』(2013年5月発行)より〜

5月1日現在の内定状況

5月1日現在のモニターの内定率は 53.0%で、前年同期を7.2ポイント上回りました（図XX）。5月の内定率が50%を超えるのは、2009年卒者以来5年ぶりとなります。先月調査でも内定率は前年同期を4.6ポイント上回っていましたが、今回 は前年同期より7.2ポイント上回りました。

また、表XXに示すように、内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは62.0%。前年より4.7ポイント増えており、内定先への満足度が高まった感がうかがえます。

就職活動継続者の状況

就職活動を継続している学生(内定保持の継続者も含む、モニター全体の63.3%)に、選考中およびこれから受験する予定の企業(持ち駒)の数を聞いたところ、平均して 5.0社と先月調査(8.4社)より3.4社減っていました。今後のエントリー予定社数は平均8.9社で、内訳として未内定者のエントリー予定社数が多く(9.5社)、内定取得に向け積極的に持ち駒を増やそうとしている様子がうかがえます。

未内定者の今後の見通し

内定を得ていない学生(モニター全体の47.0%)に、今後の見通しを聞いたところ、最も多いのは「選考中の企業はあるが内定をもらえるかどうかはわからない」で、63.2%(前年64.8%)でした。一方、「近々内定がもらえる見通しが立っている」は、8.6%で前年より3.4ポイント増えている結果でした。(図XX)

また未内定者の現時点で活動の中心としている企業の規模を聞き、全モニターに3月に聞いた調査と比較すると、「中堅中小」「規模にこだわらない」との回答が3月調査より大幅に多く、中堅中小へシフトしているといえます。(図XX)

就職活動のスケジュールへの意見

企業の採用広報開始が12月であることに対して、学生がどう捉えているかを聞いたところ、約6割が「適している」と判断。その理由として、企業研究などのために「春休みを有効に活用できるから」という意見が目立ちました。中には、「適している」と答えながらも、「12月になってから始めるのでは遅く、事前の対策が必要」とのコメントも少なからず寄せられました。 (図XX)

また、2016年度から就職活動の解禁時期が「3年生の3 月」へと3カ月繰り下げられること(2016年卒者から適用見込み)について、就活生の立場から賛成か反対かと聞いたところ、反対意見が多く、時期が遅くなることに純粋に懸念を覚えるという声が目立ちました。(図XX)

（株式会社ディスコレポートより抜粋）